

OB訪問



今回は本学から南へ2,000km、大分県別府市の歯科医院院長・藤井さんです。卒後4年で開業を叶えて23年、自ら臨床に立ちながら、診療台12台、スタッフ17名の歯科医院を率い、その経験を後輩育成にも惜しみなく発揮しています。

医療法人ルミエール歯科(大分県) 院長

藤井 茂仁さん (歯学部歯学科1987年3月卒業、
2000年3月歯学部歯学研究科博士課程修了)

居心地のいい歯医者さん

観光都市・別府市で美しい住宅地として知られるルミエールの丘に本学歯学部4期生、藤井茂仁さんの経営する医療法人ルミエール歯科があります。一般・小児・矯正・審美の歯科、インプラント、口腔外科に加えドライマウス外来、口腔漢方を診療メニューに掲げ、5名の歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手、医療事務、総勢17名のチームで幅広い層の患者さんを受け入れています。人口に占める留学生の割合日本一という別府市らしく、患者さんの国籍も多彩です。

「他の歯科医院と同じなら当院の存在価値はありませんから」と、藤井さんは開業以来、“他院では体験できない快適”を提供する医院経営を自らに課してきました。「自分の家族を治療する気持ちで患者さんに接する」という診療姿勢は、開業当時小学生だった患者さんが成人して子どもを治療に連れてきたり、「小さい孫が泣かなかったというから、私の入れ歯も」と来院される方がいたり、しっかりと地域に根付いてきました。藤井さんの診療で歯科に興味をもち、帰国後に大学歯学部へ入学した留学生患者さんもいたそうです。

いい医療のための「幸せ」

実は藤井さんは大阪生まれの大阪育ち、大分県はお母様の出身地です。身内に歯科関係者はいませんでした。高校時代に抱いた憧れから選んだ道を実現させてくれたのは家族の力でした。「父は青年実業家だったのですが事業に失敗し、物心ついた時は個人トラックの運転手。歯学部には縁遠い環境でしたが、父は夜も明けぬうちから夜遅くまで、必死で働いて学費を払ってくれました」。

逆境に負けないうまさと家族を思う心をお父様から受け継いだ藤井さんは、家族を



「できるだけ歯を削らない、神経を取らない、抜かない」、そして「保険内でよりよい診療」が診療のコンセプト。いまの歯科診療の主流を実践しています。一般的な予約制を採用せず、時間の無駄やわずらわしさを減らしていることも「通いやすさ」として好評です。

とても大切にしています。「まず夫婦、そして親子の関係を大切に」と、ちょっと勇気がいるような言葉をさりりと口にし、「幸せにしたのは家族、そして一緒に働くスタッフ」と続けます。人としての温かさや安定感が、結果的によりよい診療、患者さんの幸せにつながり同院のファンを増やしているようです。

勝負は卒後2年間

藤井さんは本学卒業後、大阪と大分で3年半、勤務医として臨床経験を積みました。「早く開業したい一心で」歯科に関わるすべてをあるがまま受け入れたといいます。「昼休みもなく毎日10時間フル稼働が続いたときも、不思議と待遇面に不満は抱きませんでした」。先輩歯科医師や歯科技工士が時に徹夜で与えてくれた知識や技、医療マインド、すべてが現在の藤井さんをつくっています。

「歯学部卒業後の2年間が歯科医師の根幹を形成する」。勤務医時代に得た確信は歯科医師免許を取得したばかりの本



本学1年時、当時教養部があった音別町(現釧路市)の学生寮で迎えた誕生日。右上が藤井さん。岩手県で東日本大震災の犠牲となられた歯科医師・山崎正巳先生(左上)との大切な思い出の1枚です。

学出身研修医への指導に生かされています。さらに本学後援会や同窓会の役員を務め、母校から遠く離れた場所で、後輩を様々な面からバックアップしてくれています。

藤井さんは開業医の一つの成功モデルを示してくれる存在です。「現状に甘え精進を怠ればすぐに転落するという緊張感を忘れない」と覚悟をもって医院経営にあたり、自ら最新の医療を提供する姿は後輩の大きな憧れです。でも、それ以上に、藤井さんは「医療は人」を感じさせてくれます。幸せな日常が幸せな医療を生むことを、日本列島の北と南を結ぶ光の架け橋として、これからも長く後輩に伝え続けてほしいと願います。



緊張して訪れる患者さんも、ふっと肩の力が抜ける雰囲気チーム全体でつくっています。本学出身歯科医師が現在4人活躍中です。